

令和元年度病害虫発生予察注意報第1号

令和元年7月11日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

7月上旬現在、カメムシ類の発生量が多く、果樹全般において果実被害の発生が懸念される。今後、7月中下旬頃から果樹園への飛来量が増加すると予想されるため、防除を徹底する必要がある。

病害虫名：果樹カメムシ類

1 対象作物 果樹全般

2 発生地域 県下全域

3 発生時期 平年並

4 発生量 多い

5 注意報発令の根拠

- (1) カメムシ類の予察灯及び集合フェロモントラップにおける調査では、越冬世代成虫の発生量となる6月下旬までの総誘殺数がチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシともに平年を上回っている(表1、2)。
- (2) 向こう1か月の気象予報(7月4日発表)から、今後、カメムシ類の活動に好適な条件になると予想される。
- (3) 6月下旬現在、果樹園におけるカメムシ類の多飛来は確認していないが、カメムシ類の越冬世代成虫の発生量はやや多いと見込まれることから、第1世代成虫が発生する7月中下旬以降に、果樹園への飛来量が増加すると予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う(ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択)。特に、過去の多発年に早期に被害を受けた地域では注意する。
- (2) 果樹園への飛来量が増加する時期は、例年、第1世代成虫が発生する7月中下旬頃であるが、多発生年において、7月上旬頃から果樹園への飛来量が増加した事例があるので注意する。
- (3) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件では薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用が、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (5) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。

表1 予察灯における果樹カメムシ類の総誘殺数（4月上旬～6月下旬）

調査地点	チャバネアオカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	令和元年	平年	令和元年	平年	令和元年	平年
八頭町	<u>977</u>	305.0	73	84.6	<u>279</u>	154.2
鳥取市河原町	<u>749</u>	169.7	<u>26</u>	20.7	<u>232</u>	103.0
湯梨浜町	<u>556</u>	189.8	9	12.2	<u>318</u>	125.9
北栄町	<u>345</u>	205.3	6	9.7	<u>496</u>	187.9

平年：平成21～30年の平均値、下線部は平年を上回る誘殺数を示す。

表2 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの総誘殺数（4月上旬～6月下旬）

調査地点	令和元年	平年
八頭町	<u>363</u>	137.7
北栄町	<u>261</u>	112.7

平年：平成21～30年の平均値
下線部は平年を上回る誘殺数を示す。



チャバネアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫

写真1 主要な果樹カメムシ類



二十世紀の被害（有袋）



王秋の被害（無袋）

写真2 果樹カメムシ類による果実被害（収穫期）

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
ナシ	スプラサイド水和剤	1,500	有袋:収穫7日前まで	3回以内	1B	有機リン系
			無袋:収穫21日前まで	2回以内		
	スミチオン乳剤	1,000	有袋:収穫14日前まで	6回以内	4A	ネニコチノイド系
			無袋:収穫21日前まで			
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレスロイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000~ 2,000	収穫前日まで	3回以内		
シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500	収穫前日まで				
テルスターフロアブル	3,000 ~ 6,000	収穫前日まで	2回以内			
カキ	スプラサイド水和剤	1,500	収穫30日前まで	3回以内	1B	有機リン系
	スミチオン水和剤 40	800 ~ 1,000	収穫45日前まで	3回以内		
	キラップフロアブル	2,000	収穫7日前まで	2回以内	2B	フェルビラザール系
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日前まで	3回以内		
	アグロスリン水和剤	1,000 ~2,000	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレスロイド系
ブドウ	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
リンゴ	スプラサイド水和剤	1,500	収穫30日前まで	2回以内	1B	有機リン系
	スミチオン水和剤 40	800 ~1,000	収穫30日前まで	3回以内		
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
リンゴ	MR. ジョーカー水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	3A	合成ピレスロイド系
モモ	スミチオン水和剤 40	800 ~1,000	収穫3日前まで	6回以内	1B	有機リン系
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	4A	ネニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	2,000	収穫前日まで	5回以内	3A	合成ピレスロイド系

*農薬の登録内容は令和元年7月8日現在

**IRAC コードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。